

岐阜大学協力会

事務局／岐阜大学産学官連携推進部門内

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1
TEL.058-293-3187 FAX.058-293-2032 E-mail ccr-jimu@t.gifu-u.ac.jp



1 理事会および総会開催報告

2025 年 5 月 30 日（金）「じゅうろくプラザ」において岐阜大学協力会の理事会ならびに総会を開催。岐阜大学協力会会長・岡本知彦様には理事会、総会ともご挨拶をしていただき、その後議案について説明・審議がなされ承認を受けました。

○第 1 号議案：令和 6 年度事業報告および決算報告について

○第 2 号議案：令和 7 年度事業計画および予算について

○第 3 号議案：令和 7 年度役員について

第 1 号議案については、14 の事業計画の結果について報告。秋の特別講演会では岐阜大学発の認定ベンチャーである、サグリ株式会社の坪井 CEO に講演をしていただきました。協力会として岐阜大学発のスタートアップ企業を支援することを令和 6 年度より会則に盛り込み、スタートアップ企業との連携を図っていく事を意図しての講演者です。また、技術交流会とラボツアーが実施出来なかったこと、協力会 HP のリニューアルに伴い、企業紹介も HP に移行するためデジタルブックを作成しなかったことも報告。その他の計画については概ね計画通り遂行出来たことを報告。



協力会会長 岡本知彦
株式会社ナベヤ
代表取締役社長

また、決算については、次年度繰越金が前年よりも 170 万円程度減った事を報告。そのうち 130 万円は HP のリニューアル費用であるが、協力会運営上の経費（印刷代、郵便料金、親睦会費等）の値上がりや新たな事務所経費の発生により、収入を上回る支出となった。

第 2 号議案については、14 の事業計画を報告。特別講演会には前年度同様、岐阜大学関連ベンチャー企業の代表に講演をお願いするとともに、既存企業とのディスカッションを予定。R&D 向上促進支援の一部を岐阜大学関連ベンチャー企業と岐阜大学の共同研究に使用できるようにした。また、デジタルブックの作成の代わりに、協力会 HP の維持管理業務を事業計画に盛り込んだ。

予算については、作成する印刷物の種類や通信費、親睦会費等を見直して次年度繰越金の減少に歯止めをかけるとともに、新たな収入源の確保を検討していることを報告。

第 3 号議案については、2 年任期の 2 年目という事もあり、異動等による変更以外は特に無いことを報告。

【総会における岡本会長挨拶主旨】

当会も名称を岐阜大学協力会と改称して 1 年を迎えた。ホームページをリニューアルするとともに、事務局を OKB 岐阜大学プラザに移すことによって、より一層その利便性が高まり、地域経済の活性化や

スタートアップ支援、人材育成などの社会的役割を一層強化してきた。岐阜大学も地域共創を重視し、昨年度は新たに 7 社のスタートアップが誕生するなど、研究成果の社会実装が進展。令和6年度末時点の会員数は、企業会員 171 社、個人・団体・賛助会員を合わせ計 235 会員にのぼる。今後も多様な連携を通じて、地域の課題解決と発展に貢献していく方針が示された。

2 記念講演会

講師として愛知県豊橋市に本社を持つチョコレートの製造販売会社・久遠チョコレートの夏目浩次代表を迎え「温めれば、何度だってやり直せる」という演題で講演を開催。今回は講演者からの要請もあり、初めて対談形式での講演とした。夏目代表が自らの SNS で発信をしてくれたこともあり、今までの講演会とは違い、夏目代表のファンという方も多数出席をされて、非常に盛況な講演会となった。



久遠チョコレート代表
夏目浩次氏

【夏目代表講演要旨】

質問 1：夏目様が障害を持つ方々に健常者と同等の給与を支払おうと考えたきっかけについてお聞かせください。

きっかけはヤマト運輸の創業者・小倉昌男さんの著書を読んだことです。障害者の方の平均給与が1万円という事を知りました。給与の問題も確かにそうですが、一番の問題は、障害者の方には仕事に対する選択肢が非常に少ない。障害という属性があるから、こういう暮らし方、生き方しか出来ないというのがあまりにも社会の有り様としては格好悪いと思っており、だからこそ、障害がある人にとっても選択肢がある格好いい社会にしたいと思っています。

質問 2：その考えに至るまでに、どのような経験や出会いが影響しましたか？

障害を持った方が街に出掛けた時に不便を感じないよう、学生時代に駅のバリアフリー化の研究をしていたが、小倉昌男さんの著書を読んでバーンと頭を叩かれた感じがして、何て自分の視野が狭かったのだろうと思い、大学院を途中でやめてパン屋を始めました。その事で両親にも本当に心配をかけました。

質問 3：久遠チョコレートの事業を 2014 年に立ち上げる前、2003 年からパン工房を開業されて今に至っている訳ですが、その間にどのような課題や壁に直面しましたか？

小倉昌男さんが資材を投げ打って作られたパン屋・スワンベーカーリーを自分もやりたいと思い、手紙を出して会ってはいいただいたが、母体を問われて、ありませんと言ったら 30 秒で帰りなさいって言われて頭が真っ白になりました。半年間手紙を書き続けて 30 秒で帰りなさいは無いらだろうと思いましたが、多分きっと人を雇用するっていうことは、その人やその家族も含めて、その一生や人生を背中に背負っていくことだと。本当に君にその覚悟があるのか？みたいなことを小倉さんなりに言葉に込められたのだという事は後から分かりました。

その後、諦めずに色々なところに飛び込みで協力をお願いし続けたおかげで、大手の企業が出資してくれるようになりました。いろんな苦難を乗り越えてこられたのは、あの時の「帰りなさい」の一言が自分の心に貼り腰ってというか、土俵際というか、踏ん張りを作ってくれたと思っています。

質問 4：障害を持つ方々と一緒に働く中で、特に印象に残っているエピソードはありますか？

パンというのは、菓子パン、惣菜パン、ハード系のパン、食パンとかフランスパン、デニッシュ系とかですね。全部作り方のバリエーションが違うのですごくマルチタスクです。そのスピードに障害を持った方はなかなかついてこれない。パンは食材の時間軸に人が合わせなければならず、結局ついてくることの出来る方しか使えなくなり、そんな自分が嫌でした。しかしチョコレートは、溶かして固めるという単純なルーチンワークの繰り返しであり、かつ工程を分解することが出来るので、人の時間軸に仕事を合わせることが出来ます。そのため、様々な障害を持った方々に能力に合わせて働いてもらうことが出来るようになりました。

質問 5：夏目さんは著書の中で、「いかに売れる商品を作り、障がいのある人たちの「稼げる場所」を増やすか」に注力されていると書かれていますが、給与制度や働き方を整える上で、特に工夫された点やこだわった点はなんですか？

工夫されたことがあったかということ、これが全くそういうノウハウがなくて、とにかくその人その人と丁寧に向き合い、このやり方で間違っていたらやり直そうみたいな感じで、これといったテクニカルなノウハウは全くないです。

給料は働かれる時間によって決まっています。本当に少ない時間からスタートしていった、徐々に徐々に増やしていくという働き方もあります。特に出勤退勤の明確な時間は決めていないです。自分で決めた時間に出勤してもらい、帰ろうと思った時間に退勤してもらいます。

質問 6：チョコレート作りという選択はどのように決まったのでしょうか？

パン屋を経営している時に、異業種交流会に出て、そこで野口和男さんというショコラティエの方と出会ったことだと思います。野口さんの言われていることはとてもシンプルで面白そうだと思い、勉強をさせてもらうつもりでお付き合いをさせていただいたところ、いつしか野口さんのチョコレート作りを応援するようになりました。3年間くらいは修行をしようと思っていたのですが、1年たたないうちに色々な出会いもあって自社ブランドを立ち上げる事になりました。

質問 7：今後、久遠チョコレートはどのような目標を持ち、新たなことに取り組んでいきますか？

店舗展開を右肩上がりをしていこうという思いは特になく、ただ店舗をやりたいという思いを寄せてくれた方たちと共鳴できたら広げていきたいなと思っています。右肩上がり至上主義に囚われ過ぎている現代の資本主義には疑問を感じていて、なにか閉塞感と窮屈感があるものしか出来ていかないのじゃないかなと感じています。

今一度、右肩上がり至上主義ではなく、どこかで大切なものと丁寧に向き合い、成長の裏で何かを壊し続けるとかではなく、人を区別することなく、時には立ち止まる勇気を持った資本主義、それを僕は新しい資本主義という言葉で表現していますが、そういったものを目指したいと思っています。

講演終了後の講評で、王副学長から「夏目代表の持っている『人を区別しない』という信念こそが今日の成功に結び付いている事が分かった。この講演を聞かれた皆さんも、それぞれの職場でどうやったら一人一人の個性を引き出せるかを考えてもらいたい。」とのコメントをいただき、夏目代表への謝辞とした。

3 協力会フォーラム・交流会

じゅうろくプラザ 5F の大会議室にて開催。交流会に先立ち、技術交流研究会（8 研究会）、R & D 向上促進事業（1 件）、民間企業との共同研究促進事業（5 件）の成果発表を各担当の先生が行い、その後、岐阜大学・吉田和弘学長の乾杯の挨拶で交流会がスタート。非常に賑やかで和やかな雰囲気の中、成果発表をされた先生方も発表パネルの前で参加者の方々とお話をされ、交流会の必要性を感じ取っていただきました。

中締めは、協力会理事の岐阜車体工業株式会社常務・櫻井宏様をお願いをして交流会を終了。スケジュールを滞りなく終えることができました。

【告知】

次年度の総会は 2026（令和 8）年 5 月 29 日（金）に、じゅうろくプラザで開催予定です。